

令和3年度 放課後等デイサービスきらっと

事業報告書

～新型コロナウイルス感染症による感染防止対策とその対応～

昨年度より、新型コロナウイルス感染症への感染防止のため、その対応策を取りながら支援にあたってきた。昨年度は児童、生徒への影響は全国的に見ても少なく、さほど影響はなかった。しかし、今年度に入ってから利用児童周辺で感染が広がり、その濃厚接触者として休所する、または検査結果が判明するまで数日間閉所することが5月に3日間、9月に3日間閉所を余儀なくされた。1月には学校での感染状況把握のため3日間の閉所、1月末には職員が濃厚接触者となり、数日勤務していた為、感染を広げている心配があった為、滋賀県が行っているイベントサーベイランス事業にて接触のあった職員、利用者へPCR検査を実施、全員陰性を確認したがその検査結果がわかるまでの3日間は閉所した。

～個別支援計画～

4月に個別支援計画立案のため、児童発達支援管理責任者、保育士、看護師、指導員による個別支援会議にて個々の利用者の個別支援計画を立てた。6月保護者との面談実施し、説明、署名をいただいた。

10月、個別支援計画のモニタリング実施。計画立案同様、児童発達支援管理責任者、保育士、看護師、指導員で会議開催し、1名ずつ支援について振り返りを行った。11月より保護者との面談実施し、説明、署名をいただいた。

3月初旬に年度末モニタリング実施し、来年度4月に個別支援計画立案、6月より保護者との面談実施予定。

～新規利用児童への対応～

来年度より三雲養護学校小底部1年入学の児童1名を受け入れるにあたり、3月に重要事項説明書による利用にかかる説明を行い、その際母親より本人の日々の様子を伺う。さらに受け入れ側も医療的ケア等、詳細を知る必要があった為、同月30日10:00～12:00の間、父親同行のもと体験利用を実施し、新年度に向け受け入れ準備を行った。

～令和3年度平均利用者数～

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	21日	17日	22日	22日	21日	18日
利用者数合計	78人	52人	86人	88人	69人	67人
平均利用者数	3.71人	3.06人	3.91人	4.00人	3.29人	3.72人

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	22日	21日	20日	15日	18日	21日
利用者数合計	75人	87人	84人	47人	64人	59人
平均利用者数	3.41人	4.14人	4.20人	3.13人	3.56	2.81人

～職員研修～

職員相互の研鑽のため、下記研修会に参加、聴講した。

令和3年7月2日

滋賀県甲賀市放課後等デイサービス研修会

放課後等デイサービスの動向と課題

～事業所の求められる役割～

講師：立命館大学産業社会学部・大学院社会学研究科 教授 黒田 学

オンラインによる聴講

令和3年10月12, 13日

第16回権利擁護・虐待防止セミナー

福祉施設における権利擁護・虐待防止の取り組み

「福祉現場における権利擁護とは」

同支社大学社会学部社会福祉学科教授 永田 祐

「福祉施設における権利擁護・虐待防止の取り組み

植草学園大学 副学長 野澤和弘

配信動画を聴講

令和4年3月18日

令和3年度甲賀市人権教育セミナー

「新型コロナウイルス感染症と人権」

講師：湖北じんけんネットワーク 代表 田邊 九二彦

「LGBTQ+と人権」

講師：滋賀県立大学・聖泉大学 非常勤講師 杉本 正紹

オンラインによる聴講

～日常業務について～

○朝の清掃

- ・カーテンを開けて、冷暖房で室温の調整
- ・テーブルや流し台、洗面台を消毒
- ・天井走行リフトのレール、テレビ、棚等の埃取りののち、消毒

- ・床のモップ掛け、水拭き
- ・加湿器の水補充

○活動準備

- ・3週間に1回図書館へ、絵本や紙芝居を借りる。
- ・制作の作業準備、試作実施
- ・活動の計画（月・週・日ごと）
- ・技術向上のための練習（伴奏・読み聞かせ）
- ・当日利用者の記録用紙の準備、必要物品のセッティング

○利用者到着後から

- ・手洗い介助
- ・バイタル測定（体温は全員が対象でその他は必要な方のみ）
- ・荷物の整理
- ・家族からの引継ぎ、学校からの引継ぎの確認
- ・水分補給介助（持参がある方については間食も）
- ・排泄介助（介助のタイミングは個々に依る）
- ・全体活動支援
- ・連絡帳記入
- ・個別活動支援
- ・保護者来所時の対応

○利用者送迎について

医ケアを必要とする児童には看護師が同乗するようしており、必要に応じてポータブル電源を持参、使用している。利用者の構成によっては、かがやきの運転手に協力をしてもらうことで対応した。また、可能な限り1台あたりの乗車人数を少なくし、窓を開放しておくことで3密の回避に配慮した。

○配布物の作成

- ・きらっと便り（毎月発行）

お便りについては、日頃の活動の様子や過ごしを中心に写真を交えて作成している。文章については指導員が、イラストなどの装飾については保育士と、分担して一つのものを完成させている。

- ・利用日のお知らせ

翌月の利用日を示したものを作成、配布している。配布することで日程の確認、互いの失念を防ぐ役目をしている。配布後に利用日の変更があった際には口頭でのやり取りとな

っているが、現在のところ不都合はない。

○施錠の確認

当事業所は通所施設であり、職員が常駐しているわけではない為、夜間は各所の施錠が必要である。しかし、建物内には施錠を必要とする箇所が多く、最後に退勤する職員がひとりで施錠の確認をすると効率が悪い。そこで、場所ごとに最終的に確認する事業所の割り当てを行い、効率化を図っている。確認後は、所定の表にチェック、記名することで責任の所在を明確にしている。

○業務日誌・家族との情報共有のための連絡帳

業務日誌の内容は、①学校への迎えの時間②利用開始時刻③利用終了時刻④体温⑤心拍⑥SPO2⑦服薬の実施⑧水分摂取量⑨利用時の様子（⑤～⑦については該当利用者のみ記載）としており、入力と併せて、利用者ごとのケース記録にも同じものを残すようにしている。また、その日の利用ではなくとも保護者から連絡が入った際も、内容を残している。

利用している児童・生徒のなかには自ら他者に働きかけたり、何かを発信することが難しいケースもある。そのような方たちの様子を家族に伝え、あるいは自宅での様子を共有するツールとして、連絡帳を活用している。

～療育活動～

4月	ねらい	新しい学校生活の中で、放課後はいつもと変わらない安心した時間を過ごせるようにする。 ひとりひとりの気持ちを十分に受け入れ、信頼関係を築けるようにする。
	主な活動内容	散歩（綾野地区周辺） 制作（花・あおむし） パネルシアター（おべんとうばこのうた・おべんとうバス） お楽しみ会（4月度誕生会）
5月	ねらい	友だちや職員と共に活動する中で親しみを持てるようにする。 戸外での散歩で、心地よさを感じる。
	主な活動内容	散歩（敷地内） 制作（鯉のぼり・いちご） お楽しみ会
6月	ねらい	自分の時間を楽しみながら友だちのしている事にも興味を持ち、関わって過ごす。 健康管理に気をつけ、感染予防の大切さを知る。
	主な	制作（あめ・あじさい・あさがお・ネームプレート）

	活動内容	お楽しみ会（6月度誕生会）
7月	ねらい	友だちと一緒に活動する中で互いに分かり合ったり、楽しみを共有したりする。 一人一人の健康状態に留意し、夏を快適に過ごせるようにする。
	主な活動内容	制作（あさがお・くらげ） ボーリング・玉入れ お楽しみ会（7月度誕生会）
8月	ねらい	規則正しい生活習慣を目指しながら、異年齢の友だちと楽しく過ごす。 様々な感触に触れ、夏の遊びを十分に楽しむ。
	主な活動内容	散歩（シャボン玉） 制作（ひまわり・きらっとの木） 平和学習 火災非難訓練 お楽しみ会（8月度誕生会）
9月	ねらい	健康管理を十分におこない、清潔を保つようにする。 友だちと一緒に過ごす喜びや充実感を味わう。
	主な活動内容	散歩（敷地内） パネルシアター（おべんとうばこのうた・おべんとうバス） 音楽体操
10月	ねらい	秋ならではの様々な環境に触れ季節を楽しむ。 気温の変化や体調に留意し、健康的に過ごせるようにする。
	主な活動内容	散歩（敷地内） 制作（コスモス・おいも） お楽しみ会
11月	ねらい	落ち葉や木の実に触れ、秋の自然に興味をもてるようにする。 友だちに関心をもち、同じ活動をする楽しさを味わう。
	主な活動内容	制作（秋の葉飾り・お花・どんぐりタワー・アイヌ文様） お楽しみ会（11月度誕生会）
12月	ねらい	この時季ならではの遊びや行事の雰囲気を楽しめるようにする。 寒さに応じた環境に配慮し、健康に過ごせるようにする。
	主な活動内容	制作（クリスマスリース・ポインセチア・お正月飾り） かきぞめ お楽しみ会（1月度誕生会）

1月	ねらい	季節の行事を通して四季の移り変わりを感じる。 健康管理の大切さを意識的に伝え、より安全な環境のもと活動を行う。
	主な活動内容	制作 お楽しみ会（1月度誕生会）
2月	ねらい	見守られている安心感の中で活動を楽しむ。 ひとりひとりの体調を把握しながら寒い時期を健康に過ごす。
	主な活動内容	制作 地域の歴史学習 音楽体操
3月	ねらい	自然の変化に気づいたり、進級に向けての心の準備をする。 友だちに関心を向けて、活動を楽しむ。
	主な活動内容	制作（季節のお花）作品持ち帰りバッグづくり 歴史学習防災学習 避難訓練（火災・水害）音楽体操

～活動中の利用者の様子について～

障害の特性上、新しいものを受け入れ、習慣化するためには時間を要する利用者が多い。その為、同じ活動を繰り返しおこなうことで、その活動に対してのなじみや安心感を得られるよう心掛けている。今年度も昨年度同様に、コロナウイルスの影響で地域からボランティア団体を招いての活動を断念した。来年度は状況を鑑みながら来ていただくことも視野に入れたい。活動については、その日の利用者の構成により開始時刻が前後するが、通常の放課後であれば概ね 16 時 15 分頃にはじめの会に始まり、週替わりでの活動を経て絵本・紙芝居の読み聞かせでクールダウンしたのち、帰りの会で迎えを待つ流れとしている。一方、長期休暇時は時間も長く、多様な活動をおこなえるかと思いきや排泄や水分補給、医療ケアといった生活活動に充てる時間も必要で、思いのほかあっという間に終わる。

制作活動：季節に関連した花や飾り、習字などを制作し、廊下に展示している。一度に完成させるのではなく、少しずつ短時間の取り組みとしている。

散歩（シャボン玉）：夏季休業中、比較的涼しい午前施設敷地内を散策し、光や風を感じる時間をつくる。その一環で、ガーデン前の軒下でシャボン玉を実施。利用者自身では難しい為、職員がつくって飛ばしたものを眺めることがメイン。午前中はまだまだ調子が出ない人もおり、何も考えず過ごす時間も有意義であった。

音楽体操（ラジオ体操）：『てをたたきましょう』『しあわせならてをたたこう』『あたまかたひざポン』『むすんでひらいて』を活動の導入として実施。職員が見本となるように動くところを見ながら身体を動かせる子もいるが、ほとんどの利用者は聞いているのみ。しかし、

それでも伴奏が始まると嬉しそうにしており、楽しんでいる様子うかがえる。

読み聞かせ：活動の終盤に締めくくりとクールダウンを兼ねて実施。時間のある時には『ペンギンマークの百貨店』で利用者に絵本を選んでもらうようにしている。理解の容易な物語を中心に読み聞かせしているが、幼児向けの同じ音の繰り返しで構成される絵本を好む子も少なくない。

運動遊び（ダンボールドミノ・ポーリング）：段ボールを使ったドミノで、並べる作業、押す作業に分かれ、各自できる部分を担当。音を立てて倒れていく様子が面白い子や、倒れる際の風を楽しむ子など、楽しみ方も人それぞれ。

～1年間の利用者の様子～

村上力（高等部3年）

側弯症の手術のため、4月初旬から5月中旬まで入院。術後、従来使用していたコルセットを外して生活を送れるようになり、呼吸が安定。車いす乗用時の姿勢も安定するようになった。分泌物については、こまめに出すことが難しいようで、溜め込んだのちに粘稠痰をまとめて出す。車での移動時は走行の振動によって特に排痰が促されやすく、事業所までの道中では適時、同乗の看護師により吸引を実施。長期休暇には来所前の8時台と9時台に発作があった旨、母親より引き継ぐことが多くあった。利用中の発作は入眠時、覚醒時に多く、学校でも同様。9月に家族でコロナ感染者があり、PCR検査を受けられたが結果は陰性。

以前であれば活動時、何をしても喜んでいてが今年度あたりから自己主張をするようになってきた。心の成長かとも思われる。家族の迎えの際に鳴るインターホンの音に敏感で、鳴った時は驚き、表情をこわばらせ目を見開いて帰って行くことも多く見られた。

利用は週に3回、登校日に合わせている。童謡は相変わらず好んでおり、他の利用者が違う音楽を聴いていると激しく声を出して、「これは違う」と主張する場面も見られる。制作時、保育士と一緒に取り組むが対象者や対象物から目を逸らして、意欲があるとは言い難く、腕に力を入れて拒むことも少なくない。一方で、音楽体操などでは職員が歌詞に合わせて身体に触れても嫌がることはなく、むしろ喜んでいる。以前は活動も臥床した状態での参加が多かったが、離床しての参加を基本とした。本人としてはベッドで過ごす方を好んでいるようであり、不服そうな表情を見せている。来年度からのかがやき利用に向けての実習済み。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	4回	7回	10回	14回	11回	3回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	12回	12回	10回	4回	12回	—

大森彩詠美（中学部2年）

4月～6月と9月に下半身を落ち着きなく、もぞもぞと動かすことがある。その様な時には

導尿時にオムツ内への自尿がなく、導尿後に落ち着くことから排尿したくても上手く出せない事に対する不快感からくるものと思われる。それに伴ない、通常 18 時に実施してきた導尿も本人が不快感を訴え始めた時点で施行するように変更した。施行後は何事もなかったかのように落ち着いて迎えを待つことも多くなっている。2 月に嘔気があるという事で学校を早退したが、受診はせず様子観察のみで問題なかった。元来、逆流しやすい人である為、それかとも思われる。

食事や水分補給で職員が他の利用者の介助をおこなっていると、「自身への職員からの関わりがない」「注目されていない」ことに「うー、うー…」と声を出して不満を訴えている。その際は直接的に関わりをもつことで機嫌は戻るが、関わりを終了した途端、再び不満を訴えることも多くある。

床での座位保持をしない時期もあった。以前は床に座ると単独で姿勢を保持できていたものが夏頃にはしなくなり、念のため背後で控えている職員にもたれて倒れかかって来る。活動は、内容自体より活動を通じての職員との関わりを楽しんでいる。そのため、内容による好き嫌いはないが、しいて言えば自然の刺激を感じる事のできる散歩を好んでいるものの、日光は相変わらず苦手で眩しそうに目を細めている。また、ボーリングやすごろくといったレクリエーションの要素を含んだ活動に対して楽しみ方が分からない様子であるが、見たり聞いたりするものへの反応が良い。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用回数	14 回	11 回	14 回	11 回	12 回	14 回
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用回数	13 回	14 回	14 回	10 回	11 回	13 回

堀田都琴（中学部 2 年）

学校での歯科検診の結果を受けて受診すると、半年以内に神経にまで達する恐れのある虫歯あり。治療には 1 泊の入院を伴うとのこと。現在のところ、飲食の際に様子をみているが、痛そうにする様子もない。今後も観察を必要とする。

非常に繊細で、特定の利用者の吸引時に生じる音や咳払いに怪訝そうな表情を見せており、その際には活動や飲食を働きかけても、まず応じることはなく不快な音が聞こえなくなるまで待つ必要がある。また、以前は移動の車中で職員を触るなどしていたが、到着まで静かに待つように諭すと以降は静かに乗車しているというように心の成長がみられた。しかし、依然として食事に関しては本人のこだわりが強く特定の職員の介助でしか受け付けず、さらに食べ始めるまでもにも時間と継続的な励ましの声掛けが必要となる。コロナの影響で利用に間隔が空くと久しぶりに来ると緊張するのか、表情が冴えない。また、陰部にただれもあり、生活リズムの変化も関係しているようにも考えられる。

「散歩」という単語を聞くだけで大喜びしているが、その反面、制作など何かしなければいけない活動には反応が悪く、明らかに嫌そうな表情をしている。散歩や音楽鑑賞といった受け身の活動は好きだが、自身が主体となってしまうことは嫌な様子。今年度は人権や地域の

歴史にも触れる映像学習を取り入れたが、受け入れがよかった。しかし、内容に関心を示しているのではなく、ナレーションや話し手の口調や抑揚に面白さを見出し喜んでいる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	7回	3回	7回	7回	6回	9回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	9回	9回	11回	7回	8回	9回

終歩汰（小学部4年）

通常の放課後利用の際は事業所到着後、水分補給を済ませたのちに浣腸を実施。しかし、周囲の状況が気になり排便に集中できないことがある。その為、活動終了後におこなうと集中することができた。一日利用の際は腹部の張り具合により実施するが、基本的には帰宅後にすることが多かった。腹部の緊満、腸の調子は良好であるが、車いす座位が疲れるのかりラックスできずストレスを感じて空気を胃に溜め込んでいるように思われる。仙骨部は悪化傾向なく、変わらない。マスク着用による肌荒れが現れるが、マスクの使用場面を限定して着用時間を短くすると目立たない程度になった。しかし、第6波の感染拡大を受けて常時着用。元々、乾燥肌であり臥位の際は手足を擦りつけて掻いている。

利用時に使用しているバギーと体格が合わなくなっており、バギーに長時間乗っていることは楽ではない。現在、作成に向けて保護者で調整をおこなっているが、補装具費支給での所有台数に制限があり、思う通りに事が進んでいない。その日の体調によってマットに降りて過ごすか、バギーに乗って過ごすか決めている。帰りの会で『にじ』が流れてくると「おほほ…」と声を出して喜んでいる。常時、マスクをしている為、どうしても気になるようで活動を楽しめていない。水分や食事に対しての受け入れがよくなったため、優先的に摂ってもらっていたエネーボを優先させる必要はない。父親も迎えに来るなど、協力的。以前は他者と視線を合わせることがごく短時間であったが、最近は視線を合わせるようになってきており、成長を感じる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	13回	2回	15回	15回	10回	13回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	7回	11回	15回	9回	11回	12回

宮澤恵（中学部1年）

相変わらず発作が多く、抗てんかん薬で調整しているが、副作用なのか傾眠傾向が強い。しかし、11月にバルプロ酸ナトリウムを減薬して以降は覚醒して活動に参加することも多くなってきており、現在の身体に合っていると考えられる。寝ている状態から突然目を覚ました後には、ほぼ発作があり数十秒のものが断続的に起こる。コルセット、短下肢装具の使用を開始する。

調子が良い時は読み聞かせが始まると声を出して期待感を表現することもある。それ以

外の活動では傾眠状態であることが多く、制作などでは本人の手を取って職員と一緒につくるも、脱力しており本人の意思が作品に反映されているか難しいところである。

長期休暇の利用時、遅い時は14:30～17:00の利用となる事もあった。学校へも12:00頃の登校がほとんどとなっている。原因は、本人ではなく母親の体調によるものとのことで、無理のないようにとお伝えしている。

排泄介助の際に介助台へ移乗をおこなうと以前であれば声をあげていたが現在では無言で、落ち着いて介助を受けている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	5回	3回	4回	5回	2回	3回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	5回	5回	5回	2回	4回	5回

大井咲陽（中学部1年）

車いすを新調され、介助型の車いすを使用。そのため、自走はしなくなった。また、コルセットもつくり替えた。以前は装着が嫌で、外しては投げ捨てていたというが現在はそれもない。成長著しいが、姿勢保持に必要な筋肉が成長に対して追いついていない。頻回に目が充血し掻いていたことから、2月に逆まつ毛の手術を受けた。

利用回数が以前よりも減っている。理由としてはリハビリの回数を増やす為とのこと。従来の小保での月1回に加え、びわこ学園でもリハビリを実施。他事業所利用時の様子を、他利用者からの働きかけが多い他事業所の方を好んでいる様子で、よくはしゃいでいると聞いた。きらっとでも車いす乗用時よりも床に降りて開放感がある方が本領を発揮しやすいのか、はしゃいだり職員に積極的に話し掛けたりする場面をよく見かけ、楽しそうにしている。

夏休みの課題プリントのスタートとゴールを直線や曲線で結ぶというものでは、直線は得意な様子。しかし、曲線はスタートとゴールを最短距離で結び、曲線にならない。活動中は周りを気にして落ち着きない様子が多くあるが、同じセンテンスを繰り返す絵本を読み聞かせると食い入るように見ており、関心の高さがうかがえた。

ハロウィンやクリスマスなど、仮装する催しでは怖さがあり、不安そうな表情を見せるが、今年度のクリスマスでは不安を打ち消そうとしたのか大きな声で「やったー！」と大はしゃぎする様子があった。また、「馴染みがない」「見通しが立たない」といったストレスを感じる時は腕を掻きむしったり手や髪を口に入れて何とか気持ちを紛らわそうとしている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	6回	5回	5回	6回	5回	3回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	4回	4回	3回	2回	2回	3回

松枝生龍（小学部2年）

本人からの要求で、その場にそぐわないことに関しては無理と伝えると、納得することができる。他の利用者が吸引を受けていると自身もして欲しいとアピールすることがあるが、分泌物はないことも少なからずある。吸引時に人工鼻内に紙の欠片を発見する。誤飲したものが分泌物と一緒に上がってきたと思われるが、きらっとで使用している紙質のものではなく、またいつからあったのかも不明。同居家族がコロナウイルス陽性で、本人はじめ家族全員濃厚接触者の認定を受けたことにより、2週間の自宅待機となる。結果的に陰性で当初の予定通りの日程で自宅待機解除となった。呼吸器を約2年使っていない為、主治医に母親から相談された結果、持参されなくなった。年末くらいから吸引の回数も増え、分泌物も固い。

今年度よりネジを回すジェスチャーを頻繁にしている。学校でメロディブックの修理を先生とおこなったことが印象的であったようで、サービス事業所や自宅でも繰り返している。その一方で、ひとつの玩具への執着はなくなってきており色々な玩具で遊ぶこともある。職員がギターを演奏した際、上機嫌で聴き演奏後に長く拍手をしてアンコールをしていた。父親もギターを弾くため、馴染みがあって楽しかったものと思われる。自身が身体を動かして活動する音楽体操や制作では気持ちを向けることができるが、合間の音楽鑑賞や映像観賞では間が持たず、足をバタバタして落ち着きのない様子がある。その際には、やんわりと注意をすると聞き入れない為、毅然と注意することで受け入れることができる。必要に応じて人工鼻をスピーチバルブに交換していたが、声を出すかどうかは本人次第であるため、現在は交換していない。交換をしなくてもある程度であれば聞き取れる位の声を出すことは可能。水分補給の際、職員からの声掛けが多いとより注目を集めようとお菓子で遊んでしまう。その為、適度な声掛けに留める必要がある。また、同じように自分で食べたり飲んだりする事のできる利用者があることで真似しながら上手に食べることができる。弁当はスプーン・フォークですくって口へ運ぶことができるが、こぼれる量も多い。それについては職員での一部介助が必要となる。

繰り返しマスクの着用を迫られた時や、芝生の上を自身で移動するように促された際に涙を流している。お調子者の一面があり、気に入ったやりとりを延々繰り返す。周りの反応が面白いと思われる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	13回	6回	15回	11回	6回	10回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	15回	14回	14回	6回	9回	14回

岩田聖加（中学部3年）

きらっと利用開始前に受けた側弯矯正術後よりコルセットを使用してきたが4月の受診をもって必要性がなくなり終了となった。水分摂取量が不足しているためか、便通が悪く1週間出ないこともある。時折、緩下剤の投与を依頼されることもある。しかし、4滴と一般的に考えて量も少ないため排便に繋がってるとは考えづらい。併せて、持参する弁当の内容

を観る限り内容に偏りがありそのことも排便を困難にしている要因の一つとして考える。発作は寝入りや寝起きにある傾向。時間としては一瞬で、見逃していることもあるのかもしれない。

3月の中学部卒業後、びわこ学園へ入所の予定。その為、年明けからは慣れるためにもショートステイの期間が長くなっていった。水分の摂取に否定的。周囲に左右されることはなく、自身のペースで生活している。その為、飲食も環境や介助者によって摂りたがらないのでなく、あくまで本人のタイミングでない事が理由と母親より伺った。活動についてもどれが好きというものもなく、あくまでマイペース。

9月より新しい車いすを使用開始。チルトリクライニング式であるが、今までのように休むために倒すと、レッグレストの関係で姿勢が安定しない。その為、フルフラットにはせず少し倒して対応。これで十分なのかリラックスして寝ていた。活動時に物を提示すると関心はあるようで追視する様子があるものの、どれをどうしてよいか分からないのか、掴んで投げつけるなど、対象物へのアプローチが強い。

稀に母親ではなく、別居の父親が迎えに来られることもあるが、母親によると本人は父親の方が好きなようで非常に上機嫌で帰って行く。両親は離婚しているとはいえ、父親との関係も良好。また、反抗期なのかと思われる行動も見られる。以前からも気に入らない物に対しては手で払いのけることがあるが、それに加えて姿勢を修正する際にわざと車いすから落ち落ちて不満をアピールしているが、その姿勢から自力で戻ることができない為、結局他者の力が必要。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	12回	13回	14回	11回	7回	8回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	9回	13回	7回	4回	6回	1回

窪田幸輝（中学部3年）

5月、6月は入退院を繰り返す。腸イレウスが原因であるも、5月の入院では注入時に心拍が上昇することでの入院。併せて、体重増加を図るため約1ヶ月と長期の入院であった。12月にもイレウスで入院したが、呼吸器の変更を伴うため、入院は長引いた。なお、呼吸器の変更に伴い看護師が説明を受けた。また、2月にも発熱が原因で入院。発熱以外はそれ以外のバイタルも正常値でPCR検査も陰性であった。3月の第2週に退院となったが、結局発熱の原因は分からなかったとのこと。

長期休みの際は左仰臥位への体位交換実施。それにあたり、母親に手順を教えてもらった。基本的に体位交換を本人は好んでいないが、除圧の必要性から実施。その際は意識を反らす目的で『クレヨンしんちゃん』を視聴できるようにしておくと、過ごせた。なお、気が紛れるものがないと心拍を上げて訴えてくる。本来は30分間でよいが、本人の気持ちが乗っていると約1時間実施できることもあった。無気肺の診断あり、呼吸器の使用を開始した。使用前は心拍が高かったが、使用後は90台と安定するようになった。楽しい時、嫌な時は呼

吸をしないので数値によって気分が分かるようになっている。呼吸器の変更後は数値安定。側弯症の手術が必要であるが少なくとも体重が 20 kg 必要なため、その条件を満たすまで 3～4 年要するとのこと。体重が増えるるとんかんも増えるが、現在は服薬でなんとか抑えられている。

絵本・紙芝居の読み聞かせや音楽体操など、本人が好きな活動の時は大興奮して心拍が上がり、モニターのアラームをよく鳴らしていた。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用回数	4 回	3 回	1 回	6 回	5 回	3 回
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用回数	1 回	4 回	5 回	1 回	0 回	1 回

福澤拓斗（高等部 2 年）

7 月に 1 年ぶりに利用される。昨年度は年間通して 1 回のみ利用であったが、高等部卒業後はかがやきの利用を希望しており、慣れるためにも今年度は祝日にも利用された。昨年と比べても強い筋緊張みられず、食事もスムーズに食べてもらうことができた。しかし、リラックスできるはずのマットの上では筋緊張が強くなり、身体を反らせること頻回。母親からは「反った時には戻してやってください。」と聞いているが、不用意に触れても亢進する一方であるので、見守ることしか対応できていない。吸引についても鼻からしかできないと保護者より聞いていたが、口からでも実施可能であった。

本人の「過ぎしの場」としての認識が生まれた為か、リラックスする場面もずいぶん多く見られている。急な物音で驚くことが多かったが、利用を重ねるにつれ幾分か少なくなったように思う。音楽体操が好きで「しあわせなら手をたたこう」「手をたたきましょう」では待ってましたとばかりに笑顔を見せる。また、職員同士の会話に聞き耳を立てて笑う姿もあった。食事は昨年同様、給食を喫食された。昨年、一昨年は利用時に母親より対応方法をまとめた引き継ぎを膨大なメモで渡してこられていたが、今年度は利用の回数を重ねて母親にも安心感が生まれたのか、最低限の引き継ぎで済むようになってきた。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用回数	0 回	0 回	0 回	2 回	5 回	1 回
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用回数	0 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回